



4月は卯月（うづき）といいます。日本では会計年度の始まり、新学期の始まりの月です。誕生石はダイヤモンドです。全国新酒鑑評会の予審が4月25日から27日まで開催されます。

さて、当協会の酵母製造も冬の最盛期が終わり、一段落です。各お蔵の清酒の造りはいかがだったでしょうか。気象庁発表による12月から2月の気温は、平年より暖かであったとのこと。

また、何人かの技術者に伺うと、原料となるお米の溶け具合は、「27BYに比べると溶けにくく醪のボーメがでなかった。そのためカス歩が多かった。」「いや、溶けたところと溶けなかったところがあり、まちまちであった。」などの意見があり、もっと状況を聞いて見ないと何とも判断しかねるところです。ただ、吟醸酒の香りの出は去年より低いようです。

2月13日から17日までの5日間、日本酒造組合中央会主催の外国人を対象とした「SAKE AND SHOCHU ACADEMY」が赤煉瓦酒造工場でありました。これは、國酒に関する正しい知識を海外に普及するための教育プログラムで、今回は10名の参加者でした。当協会は2月15日の午前中を担当し、岡崎会長から日本醸造協会の沿革、事業内容を説明するとともに、協会及び赤煉瓦酒造工場の案内を行いました。事業説明後に見ていただいた泡あり酵母と泡なし酵母の違い、香りの高い酵母とそうでない酵母の小仕込醪には興味深そうでした。



3月8日は新暦基準の三の午の日です。今年は2月12日の初午は日曜日で都合が悪く、この日に、協会の屋上に祭られている飛鳥山稲荷神社の初午祭りを行いました。宮司は滝野川八幡神社からおいでをいただきました。このお宮は、江戸時代の享保年間に將軍吉宗により建立せられたものといわれています。色々調べた結果、協会誌29巻3月号（P-93）（1934年）に飛鳥山稲荷神社の由来と初午の祝詞（のりと）が掲載されています。その祝詞は滝野川八幡神社の宮司のものとのことです。なお、それ以前は天祖神社（旧巢鴨総鎮守）の宮司が祭りを執り行っていたようです。



3月23日～24日に当協会主催の第21回の杜氏セミナーが北とぴあで開催されました。3月15日に行った事前審査によれば、例年に比べ香り華やかな吟醸酒は少ないようでしたが、欠点のあるものは少なく香味のバランスがとれた優良な吟醸酒が多かったようです。23日は、吟醸造りに関する講演で、午前に岡崎会長からは送付いただいたお酒の製造法、成分と評価についてと酒類総研の吉田先生に全国新酒鑑評会の状況について、午後は、青森県の吟醸造り（村中先生）、広島県の賀茂鶴の吟醸造り（椋田先生）、月桂冠の高垣氏から吟醸造りに関する醪管理方法の講演をしていただきました。24日は個別相談として8人の専門家により会社ごとの酒質相談と送付酒のきき酒を行いました。皆様方の吟醸酒造りと出品の参考となれば幸いです。